(明治三十九年一月二日第三種郵便物認可)　月曜休刊 祭日の翌日休刊　明治四十四年九月三十日（土曜日）　第七百八十二號（一）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本社定價 ▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金九十錢 ▲六ヶ月前金 ▲一ヶ年
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久鶴一郎
發行所 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●秋の辭　暁香居士投

今や季節秋に屬す、秋は樂觀すべき歟將た悲觀すべき歟。

停車坐愛楓林晩　霜葉紅於二月花　楓林の晩に嘯吟して去る能はざるは秋を樂觀したるなり、之を樂觀すれば天下到る處秋色の掬すべきあり、果して樂しきものなる歟、之を悲觀すれば秋は萬物枯寂凋落の時なり、嘗ては春の夢に榮華を誇つた江上の櫻も、無惨や秋の風にもまれて只枯葉を梢に殘し、落果の二片三片水の面を流れて逝くを見てはげに人一時花一時、釋氏は之を以て盛者必滅の理を覺れり、然り秋を悲むは社會一般の定論なるが如し。

寧ろ秋は見るから多情なり、浮氣なり、之を人に譬へて日はゞ、宛ら色氣つきたる女の盛粧美服して觸にあこがるゝ如く血氣盛なる男子の一時の虚榮に眩し浮華を夢みるに似たり、實に春は華麗なり、絢爛なり、然れども眞に一時のものに過ぎず、さればにや春宵一刻價千金と曰ふべけれど百花の紅は脂粉の氣に滿ちて俗なり。

秋は寥寂なれども萬有自ら清し、寥味あるが故に懐むが如くなれども自然の美と品格とを併はりて心凛としたる婦人にも似たらんか、余は笑ぶの俗なるよりも寧ろ懐むの趣きふかきを取る。

秋の趣は晩景より夜にかけての自然にあり『秋の夕暮』『秋の夜』と詩にも歌にも多く題を暮色夜色に取れる故あるなり、秋の夕亞字欄に凭れて、ほつれ毛の額の邊に垂れかゝりたる阿嬢の爪彈に『秋の夜』の端唄を聞く杯はちよつと乙なものなり、秋に相應しき音樂は三味線よりも琴がよし、月琴もしめやかにして何となく哀れに情あるも琵琶には叶ふまじ　月明に對し『王昭君』をものするなどは殊に哀れ深し、若し夫れ笛の音色の月に冴えたる、或は高く又低く劉院人を動かす豈又一段の妙趣ならずや。

月冲天に懸りて灝氣水の如く冷やかに空も海も唯一色の夜、海邊の逆旅に留りて追分節を聞く何となく哀れ深くして愁思切なる者あり、櫓聲軋々餘音を曳く後に引く數乃も秋の夜には旅客の愁を牽くものなり。

更け行く空に近くより遠くに徹れ行く流しの音を聞くは秋の寥味あるものぞかし、されど按摩の笛や犬の遠吠は秋でも冬でも感心せぬものなり。

凋壁の調子外れの詩吟は興平なれども美聲なれば詩吟も秋の夜には捨てがたきものにて人の感興を惹くものなり、明月に對して吟ずる時は聴くものも吟ずるものも自ら一種の感に打たるゝものぞかし、然り秋、愁むべき中にも亦情あり哀むべき中にも清爽の氣あり之れ自然の觀察なるが如し（終り）

●成川金融組合農事契　平南

道廳所管の成川金融組合は地方產業に重きを置き其業務の活動振り特に見るべきもの有る由なるが今回同組合にては地方農事の改善を計り農家經濟を發展補翼さんが爲に一の農事契を各所に設くる事とし先づ試驗的に附近の西部面、三岐面、城岩面等の三ケ所に其設備を爲したり蓋し此の契なるものは程よく利用せらるゝ場合に於て頗る便益なるものにて且つ其業務も各種に區分せられ從つて組合も其の處理に幾多の準備を要する事なるが地方の經濟狀況に依て其の事業にも自ら順序なかる可らずして同組合の如きは先づ農家の副業として養鷄飼育の改善と鷄種の統一とを計り鷄卵の產額を増すに努むるよし在來の鷄界は一番ひに普通七十粒のものならば其鷄種の統一結果は必ず百七十粒内外の產卵を見んこと實驗上己に爭ふべからざるものあるを以て組合員互に奬勵し而して能く其の農事契を利用するに於ては農家の經濟も圓滿となり進んで金融組合に依托販賣を爲さしむる事ともなるべく洵に兩全の策ならんなどぞ

新講談豫告

引續き永々御愛讀の榮を賜はりし本紙所載の小說『召使れ初』も愈々近日大團圓を告げ申候に就ては之れに代る讀物何彼と詮議の結果東都講談界の巨匠小金井蘆洲の口演に係る俠客

『深川庄八正國』

の傳を掲載することに致し候同人の豪勇俠氣は眼中王侯貴人なく義に因つては孝子節婦の爲めに氣を吐くこと千丈長夜燈下の讀物として二なきものと存じ候へば相變らず御愛讀下さる可願上候

新講談豫告

外事一束

△伊國　動員の動機はトリポリを挑發し由て同國占領の口實を作るに在りと

△獨逸　家畜類食糧缺乏を厭れ救濟策として更に鐵道賃率引下を許可したり

△獨佛　交渉に就て佛は根本的讓歩を欲せず然ども圓滿の解決を見んと公表あり

△目下　伯林に開催中の四國借款會議に清國幣制改革進歩を決し新債計畫中

△伊國　の對土談判は愼重に交渉中なれど伊政府は豫備軍召集を怠らずとか

△清國　鄭傳部は南昌萍鄉仁西間鐵道敷設の爲英國と千五百万圓借款協議中

△大倉　喜八郎の本溪湖炭坑附屬鐵鑛調掘は趙督と交渉成り日清技師踏查す

△四川　討伐の爲派遣せし湖北貴州の援兵隊更に命ある迄省境界に駐在すと

文苑

●其日〳〵　杉の舍主人

萩●萱●
かるかやは風に亂れて夕露の
れきところへさだめかねつつ

秋●夜●長●
よひにのみ酒さめたれどきぬぬひて
ねぬ人もあり長き秋の夜

落●葉●有●聲●
むしのねはいつしかたわし庭の面に
今は落葉のたどのみぞする

俳句

◎仁川卯月會俳句第八輯

△秋五題拔萃上座五十章逆列▽

菊の香の芬と來る也小錠口　柳仙
濡れて立つ馬の光るや霧の朝　一杯
船著いて入騷がしき挾霧哉　花柳
驚覺めし內侍の局菊香る　鉄舟
漁火點々鴈鳴渡る湖畔哉　竹窓
鴈鳴や萬里故山の母偲ぶ　一滴
來る鴈や書を欺く月明り　一杯
灘の音斗り粧ゝ霧深し　凌霜
初茸や都の君へ態使ひ　竹窓
干網の續く漁村や渡る雁　竹賀
奇岩あり老松ありて菊の花　海南
菊の主道樂は茶と俳句なり　竹賀
鯛や職工群れる夕渡舟　同
遠征の露營の上や鴈の掉　花柳
鯛の何時迄鳴くや夕月夜　海雨

旅枕眠られぬ夜を鴈渡る　花柳
初鴈の鳴き渡る飛圓境ひ　如風
鴈鳴や旅返る窓に月斜め　瓢月
菊の香や書舘に被る日の渡　一杯
鯛や陽明門にさす西日　竹窓
卓上の菊や夜會に香馥郁　月
露晴や神燈消えいく島　是空

西洋商話

嬰兒の寫眞を無料撮影

商ひは牛の涎れの根氣よくと或る呉服商の考案を巡らして秋の大賣出しを機會に當歳の赤さんの寫眞を無料にて撮影することを廣告したが千金萬金にも代へ難き子寶を設けし親の身は何よりも先づ寫眞をと思ふが人情とて他店を壓する盛況を極めた。而して撮影希望者には嬰兒の氏名生れ月日と兩親の住所を記させ置き一は御得意名簿の調製に資すると同時に生れ月日をカード別にして毎年其の誕生日に御祝の手紙を差出すことにしたので商店の評判一層景がりて目出度繁昌の基を築いた。

召使れ初　第百五十五回　黒法師

「そもじに別れ候は何よりも辛く候へど恥を忍びて生き永らへ候事處り難く、こゝに一命を果し參らせ候、我身恨みを何處までも受け繼ぐとの一言、神さまのれ詞を尋く嬉しく頼母しく存じ參らせ候、うもじも武士の娘、我身も武士の胤、委細は若江様より聞き取り候やう頼み參らせ候、書き殘したきは山々あれど、前をいそぎ候まゝ惜しき筆とめ參らせ候、我身血にまどれたる匕首は傳來につきうもじの紀念に進らせ候、よく〳〵心にしめて御持ち下され候、先刻心强くそなたを出し遣り候ときの心、冥途の障りになるべくやと心にかゝり參らせ候かしく〳〵」

若花は讀み終りて、はら〳〵と涙を流す、れ察はその前へすり寄つて

「このれ匕首、私へれ紀念とござります、若江様このれ匕首、私へれ紀念とござります」

「うの儀に認めある、ちやがれ察それのれ匕首で、身を終れとは認めないぞや、うなたが恨みを受け繼ぐと云ふれ氣の一言、神様のれ告と聽しう聞かせたれ心の中推量せでは協はぬ、そなたも武士の娘、れ道さまも武士のれ胤、同じ武士の家に生れて、主従と呼ばるゝも、深い縁ある事ぢや、死ぬ所でない、れ審溜れ心を身に占めて、れ道様冥途の障碍を拂はねばなるまいぞ」

「はゝ」とれ察は平伏したるまゝ、深く答へたるが、「思ひ違ひを恥ぢまする、今心付きござりまする、れ紀念のれ匕首、此まゝ鞘に納めることゝ致しませぬで、長い目に御一覽、女ながら武士の家に生れた意地を立て貫くでござります」

「そゝ」と若江は手にせる扇とさつと開いて、れ察の顔を煽ぎながら「喃、それでこそそなた忠義が彰るゝわの、されどれ道様御生害あらする上、主なる御方御逝去なさせの上、召使のうなた御殿に殘り居る事は協はぬ、れ道様御遺骸、踏出不淨門から立ち退けば、れ緣地一重が幾千里の隔、二度潜び入る手術もあるまい、さすれば御道さま御恨み、何日晴らすべき時もなく、れ心を籠めさせたれ書置も、反古同然と鎮るであらう、で、右も左も今日の中──」と云ひかけて四邊を見廻し「喃、れ道様今果の御無念を晴らすは、やがてれ家の光を遮る雲を拂ふに當るわの」

『委細心得でござります』、とれ察はつとしたる聲なりき、「旦那様御遺骸、やがて御檢視あらせられるでござりませうな」

『た道様御生害の一伍一什、私の口から牧野様へれ届、緩々御檢視願はうで、うなたはまづ心の用意、御年は召させられても、三浦流劍術の奥儀極めさせた御方、一通りではならぬ、合點あらうの」

『及ばずながら忠義の二字を胸に籠めて、旦那様れ恨みを散らしまする」とた察は斯程の大事に臨みても、毫厘れびれたる様は見せず、「早や御退けござりませうか喃」

「れ歌合の御興も終らせて、先刻より御酒宴開かせられる、彼のれ方れ下りは中の上刻、山吹の間の御廊下を眞直に、長局のれ庭から、中門をれ越えさるが、れ退りの順と聞いてある、れ中門外には山吹咲きて、若葉の垣根繁り合ふ、屈竟の場所ぢや、脱漏なく致さうぞ」と若江もそれとなき詞、もし彼女の手に由りて、老猾狐の如きた年寄を屠るを得ば、富貴姫樣れ身の上に

東京電報

▲**敬神思想鼓吹** 内務省にては近年敬神思想の鼓吹を爲すと共に神社社殿の修繕境内の擴張等を行はしめ之を奬勵するに神社共通金の融通を爲し居れるが來年度に於ては其の金額を增加す

▲**利子引上影響** 日本銀行貸出金利引上の結果其金融界に及ぼす影響に就て聞くに市内各銀行の意見は畢一決し其引上を當然なりと云へり而して日銀利上に先立ち何れも相當に利率を高め居れば此際利子を引上るが如き事は全然なかるべし

▲**公債買入償却に就て** 政府が市場の情勢如何に依り減債基金を以て公債買入償却をなす事に内定せる由傳へらるゝや端なくも一般市場は何等か特殊の意味を有するものとなし種々の疑議を抱く者あるに對し山崎國債局長は語つて曰く政府が公債買入償却の方法を採用する事に内定せるは事實なるも然ればとて從來の抽籤償還法を廢止するには非ず只最近の如き金融漸く繁忙の時機に於てさまで多額ならざる公債償還を行ふに當り抽籤償還法に替ふるに買入償却を爲すは廣く所有者の手許にある公債の償却を爲さず寧ろ浮動せる公債を買入れ償却を爲さば有効に時價の釣上げに効果あるべきを思ひ即ち市場の情勢に鑑み該償還法を採るに過ぎず云々

▲**内田外相歸朝期** 新任外務大臣内田康哉氏は廿六日シャトル解纜の阿波丸に便乘したるが十月十二日横濱着の筈なり

▲**選擧法改正案** 衆議院議員選擧施行法改正案は今春樞密院顧問官の諮詢を經て同法第三十三條の直接國稅種目中地租所得營業稅の條項に就き勅令を公布せられたるが貴族院多額納稅議員互選規則と權衡を得ざるより昨今改正の說あり即ち貴族院令第二條第五項に規定されたる直接國稅納附者資格直接國稅と稱する種目の件に關し改正を加へ賣藥營業稅を追加せんとするにあり此結果富山縣の如きは其資格に大變動を來すべし

▲**臺灣の製糖被害** 過般臺灣に於ける暴風の爲め各製糖會社の被害程度に付き其筋の調査する處に依れば各社を通じて被害は三割乃至四割六分に達したり

▲**樞密院休會** 二十九日は樞密院會議定日なりしも御諮詢案なく登院の各顧問何れも天機を奉伺して退出したり

▲**香取艦の小椿事** 目下周防灘に於て演習中なる軍艦香取は射擊の際誤發の爲め水兵一名負傷したるも他に何等の損害なかりし

▲**全國水道會議** 來る十月二十七日より向ふ一週間東京市會議事堂に於て全國水道會議を開く議案は上水に關する事項等五十餘件なりと

雜報

●平和博士と語る　イス・エム生

平和博士またの名は魚族博士の綽ある デビット、スタア、ジョルダン博士夫妻を二十八日午後丹羽青年會幹事及び「ソウル、プレス」記者と同車水原に出向ふ七時十六分釜山發急行水原驛に來れるを以て前二氏と共に乘車すれば貸切一等車内に博士夫妻及馬秘書役及出迎の飯島囑托あり、折柄博士夫妻は夕食を了りたる許りなりしが記者等の出迎を多としたるもの如く直ちに握手し同時に記者等を夫人に紹介し夫より席に就いて徐ろに口を開く。

▲**魚族の研究** 博士曰く、余が今回來鮮したるは之と云ふ確たる用事あるに非ず、素より魚族の研究は余の專門にて且つ好むところなれば釜山に上陸すると同時に種々異なりたる魚類の蒐集を爲したり、故に京城に着かば同地の魚市場は勿論仁川、平壤鎭南浦の各市場を見舞ふ考なり。

▲**九十二回の講演** 偕余は今回東京大阪京都神戸等に於て非常の優待を受け衷心大に感謝し居る次第なるが何にせよ日々の御馳走攻めに搆て加へて五十二回の講演を爲したれば余の疲勞は甚敷連絡船内及瀛車中に在て僅に睡眠不足を補ひ居る譯なり。余は御希望とあれば京城若くは平和問題に付いて一二回の講演を辭せざるべし、併し余は朝鮮に於ては可成御馳走と講演を避け自家の見聞に勉むる考なり。今や國際平和主義は歐羅巴の二三强國に於ても亦た我米國に於ても採用せらるゝに至りたれば此上各國の平和主義者にして其鼓吹に勉めて倦まざれば遂には其目的を達し各國共に軍備に要する費用を節し國民をして重稅の苦痛より免かれしむことを得べし。

▲**總督政治の進行** サテ併合後朝鮮の總督政治が如何に進行しつゝあるやは余の親しく知らんとする所にして之を知るは余の如き平和主義者にとつて必要なり、余は一方朝鮮人が如何なる生活狀態に在るやを見ると同時に他方總督府官憲が新附の人民の爲に何事を企畫し且つ如何に彼等を取扱ひつゝあるやを見んと欲す。但し余の是等攻究の目的は總督政治を批評若しくは謳歌するの材料を得んが爲に非ず、余として單に知り度事を知る迄のことなり、されば余は在朝鮮中は勿論歸米後と雖とも總督政治に就ては非難も謳歌も共に爲さゞるべし。

▲**連絡船と瀛車** 序に言はん余が今回の旅行中尤も愉快に感じたるは關釜連絡船の完備せることゝ京釜瀛車の何かに付け申分なきことなり、云々、時に瀛車南大門驛に着す、博士悠然身を起し夫人と共に出迎へに挨拶一歩を移して驛前に待てる馬車に乘じソンタクホテルに向ふ。別るるに臨み記者博士に向かい我京城に自働車の用意なきを語る、博士呵々急ぐ旅には非ずと。

●齋藤海相來鮮

齋藤海軍大臣は二十九日朝着の連絡船にて釜山上陸直ちに馬山へ向へり

●學校教育方針

普通學務當局者は過般發布せられたる教育令に基き高等女學校の修學年限三年を四年とし三年を以て普通學科を授け最後の一年を師範科とし高等普通學校も又從來四年の年限を五年となし四年を以て普通科目を修了せしめ最後の一年を師範科とし兩校共に卒業後は直に教員に採用し急速同化を計る方針にて來年度より開始し學校に於て家庭に於て極力啓發指導する筈なり

●教育令と女子師範科　朝鮮

朝鮮の人士をして眞に日本化せしむるには是非共土着鮮人婦女子に日本的新教育を授け先づ根本たる家庭より改革するの要を以て衆の得たる所なる。するは世人の等しく認むる處なるを以て當局者に於ても茲に鑑み各普通學校の增設に伴ひ樞要の地に女子師範學校設置の内議ありしも時期尚早と豫算其他周圍の狀況により終に該形式を執らざりしも同一方針に基き新教育令により從來の高等女學校に併設する事とし同校三學年迄は一般普通の教育を授け四學年に於て師範科を置き同學級にて普通學校の教員たるの資格を授け國語裁縫技藝等凡て日本的趣味を擴張するに在りと而は現今鮮人の高等女學校としては京城に一校に過ぎざるを以て來年度より順次調査の上增設計畫を立つべしと云ふ

●來年度の教員養成

小學校教員養成所は總督府中學校内にあり現今の生徒は二十九名にて來年三月第一期卒業生を出す豫定なるが右は修業年限一ケ年にて中學卒業生の資格を有するものに非ざれば入學を許さず卒業の上は朝鮮の各民團立小學校に採用する方針なるが來年度は三十名募集すべしとのことなり

●稻種と好適地　朝鮮

改良稻種の移植を奬勵することの急務なると及び之れが種子の種類に就ては昨紙當事者の談として掲げたる所の如し而して今更に十三道に於ける改良種移植の好適地を擧ぐれば早神力、穀良都、農場光は南朝鮮及び京畿道地方に日の出、金子は黄海道平安南北道咸鏡南道江原道地方に錦は忠淸北道に好適せるが唯咸鏡北道に至つては改良種以一として適應せず一反歩の收穫量僅かに八斗位に過ぎず之れに反して在來種は一反歩一石二三斗の收穫あり是等は何れも氣候風土に密接の關係あるが爲めにて甚だしきに至つては同一地方と雖も其耕地の位置を異にするため種子の適否も亦從つて異にせざるを得ざるものあり彼の慶尚南道の如きは早神力好適せるも海岸地方に至れば穀良都を可しとす全羅南道地方に於ても早神力を可とするも全州平野の如き用水不良なる地方にあつては長芒穗の高千穗種を好適とす又一般に西鮮地方は成熟期早き入頭、常豐の兩種適應すとのことなり

●定例長官會議

二十九日午前九時半より總督府に於て定例長官會議を開き山縣總監以下列席せり

●ジ博士の旅程

二十八日夜入京のジョルダン博士の旅程を聞くに二十九日午前總督府訪問午後昌德宮景福宮パコダ公園高等普通學校漢城高等女學校巡覽三十日午前九時南大門發仁川に赴き午後三時歸京四時より廣通館にて講演七時半より鐘路青年會館にて講話十月一日午前九時十分南大門發平壤に赴き一泊二日鎭南浦視學同夜歸京三日午前九時南大門發釜山に行き一泊四日出發橫濱に直行の由

●ジ博士總督府訪問

ジョルダン博士は二十九日午前十時總督府を訪問し山縣政務總監菊池農商工部長官に面會し庶原水產課長の案內にて陳列室に於ける魚介類を觀覽せしが百五餘種中未だ博士の知らざりしものあり非常に滿足の模樣にて熱心に說明を聞取し正午退出す

●ジ博士を招待

山縣政務總監は二十九日午後七時より總督邸に於てジョルダン博士、同夫人米國總領事シドモア、ジョッフハヲス、副總領事チブイール諸氏を正賓とし晩餐會を開き石塚長官同夫人明石總長小宮次官同夫人關屋局長同夫人菊池長官同夫人庶原課長飯島囑托津輕事務官同夫人市原總裁秘書官藤波通譯官桑原秘書官同夫人荒井長官渡邊院長同夫人玖島ドクトル等陪席せらる

●ジ博士の講演

ジョルダン博士は三十日午後四時より廣通館に於ける基督青年會主催の講演會に出席「平和」と題し一場の講演をなし午後七時半より鐘路青年會館にて皇城基督青年會主催の講演會に臨み主として學生の爲め「淸潔なる生涯の勢力」と題し一場の講話あり博士門へたるスタンホード大學出身玖島ドクトル之を通譯すべし 尙廣通館の講演に就ては招待券を手渡者より各方面に發したる筈なるも聽講希望の人々は大和町一丁目京城青年會事務所にて無料聽講券を求めらるべし

●補助貨の貸付

各道地方共補助貨不足の爲め金融甚だ困難なるに依り朝鮮銀行にては今回補助貨散布普及を計る爲め全道地方金融組合百五十餘に對し二千圓づゝを年利一分二厘五毛と云ふ破格の低利にて貸付する事とし昨今本店及支店に於て現金の引渡しを爲しつゝあり

●松寺檢事正の談

△**刑法大全の廢止** 刑法大全は鮮人に適用する舊韓國政府時代の刑法にして極短なる實害主義の刑法なり而して殆ど裁判官に裁量の餘地を與へず刑も亦過重に頗る舊式に屬し且鮮人の風俗習慣と相關渉する事も尠ければ之を廢止して日本人同樣我新刑法を適用するは最も治當なりと雖も之が爲め特別の手續法及裁判所の構成其他經費の增加を來し又市町村長に該當する機關の不備等關係する所諸方面に及び容易に實行を見難きものゝ如し併し統監府訴訟事務取扱手續法の如き一時便宜の制令を以て其手續を簡便にするの案は略々成り居れども法制局、拓殖局を通過するや否やは不明なり

△**在監人の增加** 在監人の增加は驚くべきものにして平均每月百人に餘り全國にて既に九千に上るべく京城のみにても千七百人に達す然し之を内地の人口と囚人との比例に見るに猶少數にて犯罪捜査機關を整密するに連れ漸々增加すべし而して是等を收容する監獄は頗る狹隘にて一坪に七人を容るゝ如き有樣なれば到底增築を免れず元來韓國時代にあつては每年一二回の大赦特赦を行ひ囚人を一掃したれば監獄も左迄不足を感ぜざりしが新政以來鮮人刑法の苛酷と大赦特赦を猥りにせざるとにより勢ひ獄舍の狹隘を告ぐるなり又囚人中病囚割合に多くして其病囚の大部分が肺病患者なるは注目すべき現象ならん

△**即決と正式裁判** 警察署即決令に由る處分の大部分は正式裁判に依て轉覆され自然鮮人間の警察に對する信用は薄弱なりとの内地新聞の批難は稍針小棒大の嫌あり尤も統計上即決處分のもの槪ね正式裁判に於て覆されるもの多き傾向を示せるも現今は憲兵の處分したるもの中不當と認めしものは理由を詳述して之を返付し或は集會等の機を利用して法律槪念の注文に努めつゝあるを以て憲兵側の手によつて處分せるものと雖も當を失する事尠なきに至れり

△**犯罪捜査機關** の不備甚しく京城内だけは頗る綿密なれども地方に至つては之と反比例にして一例を擧ぐれば永登浦の如く一警察署の管轄區域五六里四方に及ぶものありて檢擧上極めて困難を感じをれり還は經費の都合上當分已むを得ざるなり

●京城民會開議

二十九日午後三時より民會を開き四十三年度の決算報告青波病院を一時閉鎖して順化院に依囑する件市街道路修築に關する委員會の報告學校の機具書籍類購入豫算更正の件を附議す

●故尹男爵葬儀

故尹雄烈男の葬儀は二十九日午前八時西大門内新築基督教會々堂に於て執行せられ總督府側よりは總督代理桑原秘書官、總監代理[illegible]官、石塚長官、渡邊法院長、宇佐川總裁、明石總長代理松村副官、國分局長及市原總裁の參列あり鮮人側にては朴齊純、李容植外文武大官無慮五百餘名の會葬者あり極めて盛大なりしが式後靈柩は溫陽なる埋葬地に送らるべく旌旗花環行列美々敷南大門驛に運ばる茲には見送りの貴族李海昇、朴泳孝、李完用、尹德榮、閔丙奭、趙重應、李秉武の諸氏及び十數名の伯子男其他日鮮官民の重なる人々百餘名參集一靈柩に向かつて敬禮を遂げ喪主尹知具氏に弔詞を述ぶ十時五十分柩は列車に移され喪主及び親戚の人々隨行溫陽に向かつて驛を發す

●長距離電話開始期

十月十日頃より京城釜山間、京城大邱間、京城太田間、仁川釜山間、龍山釜山間等に長距離電話の開始を見る筈なるが尙開城釜山間にも或は開通を見るならんとの事なり

●電燈料引下期

京城日本人商業會議所にては豫て役員會を開き京龍に於ける電燈引込料及び電燈料引下方につき決議の結果日韓瓦斯電氣會社に交渉中の處此の程にいたり同會社より協定の範圍内に於て近々の中より引下を實行すべき旨回答し來りたりといふ因に引下實行期は多分十一月ならるべしとの事なり

●東拓株金拂込經過

東拓第二回株金拂込の狀況に就ては屢々報じたる處なるが去七月五日の期日迄には十九萬圓の未拂込ありたるも其後續々拂込を了し昨今の處にては未拂金額一千四百圓百十株八十七人となれるが内七十五人は鮮人株主にして之等は株券の賣買をなすも名義の書換を行はず或は拂込の意味を解せざる等一面氣の毒なる事情あれば去る五日催告を發し二十日以後は當然失權處分を行ひ競賣に附する筈なれ共此際拂込を了する者に對しては權利を享有せしむる方針なりと云ふ

●佛國司令官入京

北淸駐屯佛國軍司令官ベルソン少將は二十九日午後十時南大門着入京の上明石少將邸に滯在すべしと

●森林所屬判定

去る明治四十一年一月發布されたる森林法に基き森林山野の所有者は向ふ三ケ年内に其の地籍位置等を屆出づる事となり若し右期限内に屆出ざる者は國有地と認めらるゝ次第なるが同期限は本年一月二十三日を以て滿了したり而して屆出件數は五十二萬件の多數に達し一件約三年平均すれば半數は約百五十萬步に上れり目下農商工部にては多田屬を主任とし部員三十名晝夜兼行にて整理を急ぎつゝありと因に奸黠なる測量手等は鮮人の土地を冒認して屆出で眞の所有者は屆出を怠りしもの多數ある由なれば之が整理は非常に面倒なるべしと

●鑄形要塞司令官の出發

入京中なりし新任佐世保要塞司令官鑄形少將は二十九日午前九時南大門發赴任の途に就かれたり

●東拓の記者招待

東洋拓殖會社にては在京城の新聞記者通信員を十月一日纛島農場に招待し茶菓の饗應を爲す由

●仁川倶樂部の總會

同會にては三十日午後六時半より倶樂部樓上に於て第十回例會を兼ね總會を開き明治四十三年九月より同四十四年八月までの事務及會計報告並に役員選擧を行ふ由

●第二回稻作豫想發表期

農商工部の第二回稻作豫想は來十一月一日に各道より電報を以て報告する筈なれば其發表は十一月二三日頃なるべしと

公人私人

▲松村眞一郎（法制局參事官） 二十八日巴城館ホテルへ
▲西田常三郎（元山每日新聞社長） 二十八日浦尾旅館へ
▲牟田口元學（韓國瓦斯電氣會社取締役） 二十八日京城ホテルへ
▲佐藤潤象（同上取締役） 二十八日京城ホテルへ
▲宮地正彰（明治屋總支配人） 二十八日京城ホテルへ
▲荒木綱太（元山民團助役） 同浦尾旅館
▲武田卓爾（報知新聞特派員） 十月一日頃歸京の筈
▲ジヨルジン博士（平和博士） 二十八日ソンタクホテルへ

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客（廿八日分）
乘車客 九二二　降車客 一一四二
乘車賃金 一七三三、五三〇
▲南大門驛貨物發着高（廿八日分）
發送貨物 五四噸　到着 四三二
貨物金 六五二、七六〇（廿八日分）
▲龍山驛乘降客
乘車客 二六四　降車客 二五四
乘車賃金 一四八、六三〇（廿八日分）
▲龍山驛貨物發着高
發送 三噸　到着 一六
貨物賃金 三五、一四〇

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
九月廿八日	二三六、六九一、八八〇	四六三

▲治外法權▼

英蘭銀行が利上げの影響を受けたか、日本銀行が割引日歩を二厘がた上げた、併し實際を云へば我内地の金融市場はトーから日歩が上つて居るので、日本銀行は單にソレを承認したまでの事だ▲敢て物知り顔に言ふ譯ではないが、英國金融市場の日歩は昂低共に英蘭銀行に支配せられ同行が日歩を上げると、ソレが標準になり一般市場の日歩が上るのである▲我に於ては然らず、まづ金融市場自らが自動的に日歩を上げ其の上がつた日歩を日本銀行が是認すれば、幵を是認した證據として該行の日歩が上げらるるのである▲サテ右の相違が何から來るかと云へば、英蘭銀行は眞に中央銀行として全英の金融市場を支配するに引換へ、我日銀は中央銀行とは名のみで、實は他の諸銀行を支配するの實力を持つて居ぬからである▲幵は兎に角ドーか、銀行業者は日銀の利上げを口實にして自家貸出しの日歩を上げんとするなるべけれど、記者の見を以てすれば日銀今度の利上げは決して當地各銀行利上げの口實とはならず▲何となれば前申す通り内地金融市場の日歩はトーから上がつて居るので、其上がつて居る日歩に比し當地現在の三錢以上三錢五厘は決して安いとは云へぬからだ▲雲山の盜伐事件で鮮人のみを檢擧したとは何のコッた、呑舟の魚網し能はずとは遺憾だ▲本紙がアチコチのワカラズ屋から、非國民呼はりを泣されて主張した、監獄改善の事も、ドーヤラ今度は司法部の盡力で出來ることになつて、ソレに要する費用を、來年度の豫算に計上されたとは何よりの事だが、元來監獄の改善は領事裁判撤廢前に於てされてあるべきのだ。

東京電報

▲大官斬犯人の素性

小松總督大官を斬り犯人として廿七日午後四時芝區新堀にて逮捕されたる藤井喜代三(三十)の素性に就き聞く處に依れば彼は郷里富山市に於て不良少年の首領となり再三説諭を加へられたるものにして一昨四十二年郷里を脱走し東京に來り某商店に奉公に出し其後轉々として歩き目下は新橋の洋食店東洋軒の雇人なりしと(二十九日着)

●別莊(三) 白面子

新町府内口入屋の卅分

此の時女將は一寸氣を變へて「何うでしよう夫れ丈けの御容貌で夫れ丈けの……」

●堅氣の妾奉公

堅氣の妾奉公の方は……

可ヽ說付けます

れ預け下さい而したら然る

四の方ですが決して左れ名前は秘密ですと云れは……

收入のある年頃四十三

の大官で五百圓以上

すとも先方樣は總督府

事を云ふ「併し苗字だけでも何うです」と、此れ丈け申し上げましたら、濃厚と云ふと惜しい位此上なし、此の程位で……

家賃諸雜用 下女の給金でも旦那持

の月給三十圓と云ふ事に成りて句を切つて「併しては駄目、今晩にて下さい」と云ふ、サア此所に一人ット面白い芝居がかな僕の女房ちやるにても此の拔目

新町に支店 井門樓に抱へら

女將の前身は云ふと故郷の廣島は篠原妓であつたが日露開設すると同時乘つて二枚で出てにやん茶と名乘つて三十九年つてる内三十九年さんなる別莊と馴婚約束は成立した有つたのを樓主にか背れないので自の本店の老爺を手十年の暮其理想

實行したと云ふ強者である

た門口で某樓主にを來た「エヘン〳〵」

嗚呼、堀力太郎

▽亡父の面に泥を塗る

力太郎とは從兄(三)なるもの一家如何とも爲すべきに時めけるを恃みを寄せしに力太郎は他の鬮なる留吉を邪と判明せり

▲無慘にも冷遇……他に寄したるも食物とも與へず

……は性來の人好し(?)部使に搭ねで本年八……寄食し居たるに力太……に立たざるを口實と……

八月八日遂に僅か……に搭乘せしめ孤……の地に好人物留吉を……留吉はックく身の……奈浦沖大黑島附近に……

▲敗殘の身を激浪に委し幸なる半生を差し萬りし折節世の恨を懷いて其の最終頁を閉ぢたり、海波茫洋として骸を何處の濱に漂しけんか哀れ寂しく多島海邊の暮れの秋や、此の報を手にしても力太郎は眉をも動さゞりしと

▲嗚呼、堀力太郎 幵が必ず得進ひに依りて亡父久太郎氏の人格をさへ云露せしむるに至りし非にして悟る所あれば近く開かる可き公判廷に於て原告の請求の容る可きは容れて前非改悛の實を擧げよ、實妹ちどか遺兒久雄の父敬雄は

▲命既に旦夕に迫り居れるに非ずや須らく速かに其非を悟りて當然の義務に就ては其履行を怠ることと無らんを望む、万一前非を悛めざれば我社は

▲腐穢の筆を呵する材料を保有するものなることを言明して其反省を促して一先づ擱筆す(終)

●放火犯人 元は雇人

▽解雇されしを怨みて

仁川支那町八田利三郎方火災に就ては昨紙所報の如く放火にて犯人は既に其筋に逮捕せられ取調の結果自白に及びたるより直ちに檢事局に送られたるが此奴は原籍岡山縣苫田郡高田村大字大笹平民戸主友平の次男茂渡光次郎(二九)にて本年四月より八田氏方に雇れ最初は眞面目に立働き居たるも近頃一向素行の修らざる點あるより去二十五日同家を解雇されたるより自分の非は棚に上げ却て主人を怨み遂に放火したる次第なりと記さんにこれに對し警察署の活動振りを記さんに同夜火災の報に接したる警察署にては野村警部直ちに現場に出張して失火の模樣を檢するに放火と決定したるより直ちに犯人逮捕の命を發したれば阪下今井の兩刑事は立ろに前記光次郎の所爲ならんと察し所々搜査せしも形跡を認めざるより再び現場に立歸り居たる午前七時半頃光次郎は素知らぬ顏で八田方へ見舞に來りたる處を逮捕したる次第にて仁川區裁判所よりは志水、栗山兩檢事春川判事等現場に出張假豫審を開き全く光次郎の所爲と判明せり

●女房の自殺後聞

▽近く刑事問題起らん

去る二十四日午後五時半頃旭町三丁目六十三番戸土木請負業小川安藏妻とめ(三〇)が嫉妬の結果ヒステリーにて精神に異狀を生じ毒藥を服用自殺を遂げた事件は既報の如くなるが其の裏面に事情の伏在す可しと探り見しに安藏は獨立する以前現在壽町一丁目井門樓前に間居したる黑川組事黑川初次郎氏方の店員なりしが店の金一千圓五百圓を浪費し更らに安東縣に於ける工事請負上に付該壹圓于外三人の兩班より成る名義の下に金千五百圓を引出し全部遊廓第一樓木支店柳進樓大和新地三州尾等にて浪費する等にて不得已黑川組を解雇せられしものにて其の后南山町某材木商店にも金一千餘圓の負債を生じ居る由にて妻が毒藥自殺する前夜妻とめの衣類を入質して安東縣の某樓藝妓逃亡の旅費金三十圓を調達して送付したる由にて右等の事情原因となりしもの〻如く肉は安藏に對しては某々被害者より刑事問題を起すやも斗り難し

●教育料金五十圓

教育料即ち學債金殘額請求とて珍らしき訴訟事件あり原告は慶尚北道義興郡下里面上北洞四統三戸當時京城南部中石井洞十二統六戸居住朴變植にして被告は京城北部黄土峴松泉一統六戸李命根なるが原告朴の主張は明治四十年舊三月田舍より上京して被告李方に私塾を開き李の孫子二人に對し漢學其の他普通學を教授し四十三年舊十二月迄の教授料金九十圓の内金四十圓を受領せしも殘金五十圓を支拂ぬより出訴せし次第なりと云ひ被告李命根の主張は原告に對し孫子二人の教授は依賴したるも元來原告は京城に浮浪し來り寢食の場所なき爲め被告方に食客として寢食せしめ金四十圓を謝金として與へたるものにて請求に應ずる能はずと主張し證據調に移り原告は裁判官の質問に對し何等立證の據なく閉廷に際しアイゴ〳〵と泣き出したるが二十八日遂に請求を棄却され敗訴したり

●棄てられた妻子

太平町一丁目百十六番戸居住名出たみは本年五月夫燎之助より電報若しくは書面にて渡鮮を促されしより鄉里に於ける家財雜品を賣却し旅金調達して渡鮮したるものなるが生活一層難儀となりしに燎之助は無情にも妻子三人を放棄して行衞を晦したる爲め母子三人は慘憺たる境遇に陷入り鄉里親元に救助を求めたりとて此の程親元より異怨を其筋に照會し來りしとは世にも無情の男もあつたものかな

●仙友雅會例會

清水東雲、天草神來兩書伯を中心として成れる仙友會は十月一日(第一日曜日)例會を旭町白水に於て開會すべし會員相互の席畫及び各雅客の作品の陳列等あり會費金一圓畫餐の準備あり一日は清興を恣にするに餘りに廉なり何人にても入會するを得べし

●朝鮮婦人の自殺

仁川府朱安忠書里居住木實天日製鹽所雇人金致先

▲林氏(二二)は家內に風波絶間なきを苦にし二十八日午前九時同家の內房に於て石炭酸を多量に服用し自殺せりと

●淫賣婦告發さる

仁川寺町三日月亭酌婦西村きみゑ(十七)岡本たま(十九)の二名は二十九日午前二時三十分頃密賣淫をなしたる廉にて告發せらる

●女房に逃げらる

大和町二丁目居住郵便局傭人津崎一は不在中妻りゆう(二二)に逃げられしとて其の筋に搜查願提出せりと

●ます屋呉服店の大賣出

當地本町一丁目の元桑原商店は今回ます屋と改稱の披露旁明後一日より最新流行の珍柄品數種を一割引にて賣出す由

▲蔦家の吉彌人るへ見ると曰く「酷いワよ酷いワよ先日の如な事を書いてサ彼の人の事は證方が無いとして有りますか、ザアれがある子がある親があるのと有ること無い事書き列ねてサもしない亭主があるの亭主がありますか、有れば出しなさい、有れば出しない」と潰れたと聞いて居たのに大きな眼を剝いて食つて蒐る、僕の掛でないと云へど躊かはこそ「罰金に藤田(後藤一座の)を奢つて頂戴」▲花月の光菊は英語なら英國人より餘計に知つてるのが呼物となつて大繁昌だのに未だ稼ぎ足りないと見ね「金だけ高等女學校にキヨウベンを執らう」いけど……自分だけなのでものにならず、敷島の大和町の左衞門紙を皺クチヤにして居る▲翔翠の右女助氣でも違つたかデコ〳〵の丸髷姿で盛んに「旦那のれ拂ひはありませんか」▲同樓の達子流石い京の仕込程あり座敷の面白い妓なりと▲井門の奴は藝妓面をする相なり▲清華亭の丸子は歯ヶ剝き出して新聞の探訪を探し回つて居る▲玉家の仇吉は元井門で鳴らした女なり座敷の面白いことは無類と▲清水席の政奴色づきたり尻も太りたり▲同席のかるたは獨身だと思つてたら「チエッ、馬鹿にして居やがらア」▲清水席の政彌は淺井さんとも切れずとした利巧者、▲同席の若千代淡泊なら十八、ミユンヘンビールなら一ダースは受合ひます嘘と思つたら食べさして御覽なさいさ、誰れか笑ッ▲玉家の榮次、梅の助の兩人は座敷へ出ると徳言る、要するに少し足りないナ▲菊家は內閣更迭して大改革を斷行したりと傳へられ候▲以上悉く人の噂にしてオイラの所爲ちやアないト(雀)

●演藝だより

▲壽座 大入好人氣なる後藤一行三十日の代り狂言は前日ゞ同じく「花實娘」全七場にして二番目は「神田兒」全五場なり本劇は一行得意の出し物なりと云ふ而して此五時開演時刻迄の入場者二百名を限り木戸錢無料の優待法を設けあれば所謂「先んずれば人を制す」

▲歌舞伎座 同座のエムパテー活動寫眞は新着寫眞中の粹を拔きたるものにて彼の在り觸れたる物とは全く其の選を異にし居れることゝて初日以降大入氣を集めつゝあり

▲浪花館 吉川今勝一行三十日の讀物は左の如し

水戸黄門記(勝丸)義士傳(孤舟)慶安太平記(樂園)水戸仁政鑑(光鳳)恨のピストル、紀尾井阪爆烈彈(今勝)

壽座に出演する 深津三郎